回覧

すずかけ

掛二小学校重点目標
やさしく伝え合おう
進んでやろう
学校便り　平成30年11月

成長を実感した修学旅行

11月20日(火)21日(水)の２日間、６年生が東京方面に修学旅行に行ってきました。日程は以下のとおりです。

【１日目】上野公園班別行動－浅草仲見世散策－江戸東京博物館－月島でのもんじゃ体験(夕食)

【２日目】国会(参議院)見学－科学技術館－東京ドームシティアトラクションズ(遊園地)－東京タワー

３学級９４人の大所帯での移動でしたが、時間を意識して行動したので計画通りの活動ができました。宿泊したホテルの立地がよかったこともあり、見学先が昨年度より一つ多く、たくさん学ぶことができました。また、新幹線、山手線、地下鉄銀座線でのマナーも良く、６年生の成長を感じました。

仲見世散策や東京ドームシティアトラクションズでは、たっぷり楽しめたようですが、最高に盛り上がったのはもんじゃ体験(上の写真)です。学級毎にお店に分かれて、もんじゃを作って味わいました。こてを持って張り切る男子がたくさんいました。

自己記録の更新をめざして、一定の速さで

朝の６時頃犬の散歩をしていると、ランニングをしている本校児童を見かけることが多くなりました。意欲的な姿を見かけると嬉しくなってきます。学校では体育の時間やすずかけタイムに走っています。

昨年もお知らせしましたが、持久走は体育の学習です。しかし、陸上運動(走・跳の運動)ではなく、体つくり運動の領域になります。いかに早く走るかがねらいではなく、無理のない一定の速さで走ることをねらいとしています。苦手意識を持っている子にとっては、好きになれない運動だと思います。その気持ちに負けないで、持久走に取り組んでほしいです。

保護者の皆さん、順位や記録が気になるかもしれませんが、11月28日の持久走記録会では、安定した走りに注目してください。

修学旅行では皇居周辺を走るランナーをたくさん見かけました。老若男女関係なく、それぞれのペースで楽しんで走っているようでした。休日に家族でランニングするのも、素敵な親子のふれあいになりますね。

〔文責：校長　安田〕

入選おめでとうございます

『かけがわお茶の間宣言』普及推進事業「世界一短いメッセージ作品募集において、本校から２作品が優秀作品に選ばれました。入選作品には、１作品、佳作には、７作品が選ばれました。

優秀作品（数字は学年です）

1	船谷　　晴	おとうとははやくねて。こっちをむいてほしいよ、せなかのママじゃさみしいから。
3	森田　夏月	お父さんとお母さん、いつもなかよし。その楽しさが、わたしにまわってくる。

入選作品

1	曽我　健翔	眠いけどまっている。パパにおかえりいうまでは。お願いママ、もう少しだけあと少し。

佳作

1	北野　斗煌吏	1	福田　隼大	2	杉山　七彩
4	石川　実奈美	5	川下　真穂	6	大瀧　橙生
6	山本　　翔				

※紙面の都合で、学年とお名前のみです。

すずかけの木から新芽が！

台風２４号の影響で、伐採した体育館北側のすずかけの木から新芽が伸びています。塩害で茶色くなった葉が多い中、新緑の葉は、生命のたくましさを感じます。本校児童も、この新芽のようにたくましく育ってほしいです。

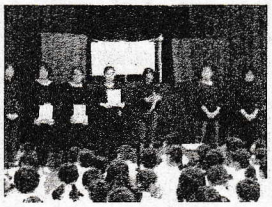
つくし会館祭できれいな歌声を披露

１１／１８（日）４年生が、つくし会館祭できれいな歌声を披露しました。地域の皆様に日頃の感謝の気持ちを込めて歌うことができました。聴いて下さった方ありがとうございました。

福祉体験で思いやりの心が広がる

３、４、５年生が福祉体験を行いました。３年生は「手話」、４年生は「補助犬」、５年生は「車いす」について、講師の方の貴重なお話を聞いたり、実際に体験したりして福祉について理解を深めました。思いやりの心が広がりました。

楽しかった「お楽しみ読書会」



１１／１６（金）読書ボランティア「ヨムニ」さんによる「お楽しみ読書会」がありました。絵本の一部が動いたり、読み聞かせに併せて様々な音が鳴ったりと児童はお話の世界に引き込まれました。長期間のご準備、本当にありがとうございました。

特別支援教育だより７　特別支援教育コーディネーター　松浦　崇

「毎日漢字の練習をしているのに、正しく書けるようにならない。」「それらしい漢字を書いているのだけど、画が１本多かったり少なかったりで、細部が正しく書けない。」等ということはありませんか。「ちゃんと書きなさい。」「よく見て書きなさい。」と言われたり、正しい字に直されたりしても、どこが間違っているのか分かっていないということがあります。本人としては、ちゃんと書いているし、よく見て書いているのだと思います。でも、うまくいっていないのです。

では、どうしたらいいでしょう。全体的な形はとらえているので、細部に注目させることが大切です。例えば、①いつも間違える漢字をチラシの裏にでも大きく書かせて、間違えているところをはっきり分からせて、何度か正しく大きく書かせてからノートに書かせる。②正しい漢字と間違っている漢字を見比べて間違い探しをし、その間違いをしないように意識させてから漢字を書かせる。③その漢字を分解して、どんなパーツからできているか確認してから漢字を書かせる。等々。

繰り返し書くだけの練習では、間違いを意識できないことがあります。どこが間違っているのかを伝える一工夫があると、自分で意識できるようになると思います。